

厚岸町議会 条例審査特別委員会 会議録

令和3年10月4日

午前9時57分 開会

出席者 竹田委員長 室崎副委員長 石澤委員 音喜多委員 南谷委員
佐藤委員 杉田委員 金子委員 大野委員 中川委員
中屋委員
堀議長

事務局 高橋局長 佐藤係長

説明員 水道課 高瀬課長 水野補佐 高阪係長 瀬川主任

- 委員長（竹田委員） ただいまから、条例審査特別委員会を開会します。早速、本委員会に付託されました、議案第74号 厚岸町水道給水条例及び厚岸町農業水道給水条例の一部を改正する条例を議題として審査を進めて参ります。

ここで、進め方についてお諮りいたします。通常の条例審査では、逐条での審査が恒例ですが、議員協議会での説明を受けていますし、5年前の給水条例の議案審査でも一括審査している経過もありますので、一括で行いたいと思いますが、皆さんいかがですか。

（「異議なし」の声）

- 委員長（竹田委員） では、そのように進めて参ります。それと本日の会議時間については、諸般の都合により午前中いっぱいまでと致しますので、予めご承知おき願います。それではこれより質疑を行います。ございますか。4番。

- 音喜多委員 今回の値上げの状況、料金体系を見直すということは、重々分かりました。当町における水道の現状みた場合、料金もさることながら今日までの状況を見ると水質と水量をどうやって今後維持していくのかということが問われているかというふうに思います。

それで端的に言います。何年か前から北海道の協力を頂きながら井戸を掘って、いわゆる地下水に切り替えようとしております。その見通しについて、今日までの経過とこれからの見通し、これがこの次に想定される水道の事業に対して大きなインパクトを与えるのではないかというふうに思うわけであります。

令和4年度からの引き上げにはやむを得ませんが、その先またどういうことになるかを見通した場合、現状のままで何も手をこまねいているばかりではなく、先手を打ってその水道に対する状況を変えていくという策からすれば、水脈を確実に確保して給水法

を変えていくというやり方が望ましいと感じますので、そういう意味では過去の調査、それから現在、将来の見通しを明らかにしていただきたいと思います。

●委員長（竹田委員） 水道課長。

●水道課長（高瀬課長） お答えします。水道の現状ということで、地下水源の調査に関しては、平成30年頃から大別地区を中心とした水脈調査ということで、電気を利用した探査をかけて、3箇所ほど有力的な候補地を選定しておりまして、当然ながら今の簡易水道地区で井戸を見つけたというようなことで、標茶町に近い方の井戸になります。

今回は昨年その選定の中でも有力地と。極力、町場に近く豊富な水量を求められないかということで本年、7月から井戸の掘削調査を行いました。

これまでにちょっと先日わかったことなんですが、大別の町営牧場管理棟から約1kmまで行かないんですが西側の方に300mmの口径で仕上がりの大きさなんですが掘りまして約100m掘削しました。

それでわかった事があって水量的にはまあ厚岸町全体とすれば最大ここ数年でいうと1日一番使う時で4,300ぐらい。平均で3,500立方メートルを使うんですが、そのうち今回、一つの井戸で1,000立方メートル確保できる水量を得られる井戸を得ました。

あと水質なんですが2項目ほどちょっと基準値を上回ってるんですが、いずれも薬品処理によるもので対応できるのではないかという調査結果が出ておりまして、ひとつの地下水源の穴では足りませんので、先ほど言いました4,300立方メートルほどということではいけばあと5孔ぐらいは必要でないかというような状況にございまして、いま井戸が活用できるものと判断しておりますので、あと4孔ほど得られれば地下水源に今後は移行して行けるのではないかというようなことで今考えておりまして、今回は町営牧場側のこれ町有地なんですが厚岸標茶線の右側になりますが、もう少し原田さんという牧場さんの土地のちょっと下の方なんですが、そこにもう一個掘りまして、井戸の水質並びに水量調査を実施していきたいなと思っております。

今年度はもう一度電気の探査をかけまして、有力地を見つけておりますので、今後また調査のもとに試験孔を掘って今の川水源で行くと薬品費及びその水道に係る設備投資がやっぱり下げられませんで我々としては地下水源の方に切り替えたいと今考えております。

あと来年は、掘った井戸に関しても年2回ほど水質調査をかけて変動しないかという確認もしないといけませんもんですから、そういうようなものを継続しながら今の川水源というより我々としては地下水源の方向性、ランニングコストとしてもその前に検討したのが例えば今の門静の浄水場でいけばあの地域に関しては浸水地域というところにあります。

現状の場所の危険度、それと設備の更新、それを考えるとそこを同じような形で更新しようとするのと約60億くらいかかるというような見込みでありますが、地下水源に見直すとまあちょっと配管距離は長いんですが今の状況でいうと約50億ぐらいはかかる。

今後なんですが国・道に対してもですね、補助金等の水源地の見直しそれと安全度を増す代替え施設というような形で補助で取っていただけないかという協議をしながら、

補助金も活用しながら整備を進めて行きたいと考えています。

●委員長（竹田委員） 4番。

●音喜多委員 今言われたところの牧野の管理棟の西側、町営牧場の牧草地のちょうど切れ目。さわとの間の4ごうごうと流れる水は、私も50年前に昔の牧場を開墾したときに、ボリボリとしめじが出たことがありますて、多くの町民はそこへ求めに行ったと。

その時に、ごうごうとする音とともに冷たい水が牧場の下の切れ目から吹き出てる中で、あの当時は秋から冬に向かっての時期で夏場はどうなってるか見たことはございませんが、多くの町民は知っているだろうと思います。

それが今でも皆さんの目にとまって、こういう手段に利用出来るのかなと思いますが、いずれにしても早期に現状のままで水道はもうどうしようもないっていうか行き詰まってしまうのではないかと、そういう意味では次の対策として、料金よりも水質、水量確保が前提になるだろうと思いますので、その点についてしっかりと計画を立ててやっていただきたいなと思います。以上で終わらせて頂きますが、いずれにしても当分この料金体系は全道でも何番かの指に入るくらいの厚岸町は水道料金は昔から高額なほうだというふうにいわれてきてましたが、それを解消するためにも地道に次の手段をとっていただきたいというふうに要請して終わらしていただきます。

●委員長（竹田委員） 水道課長。

●水道課長（高瀬課長） 確かに委員おっしゃるとおり、料金体系については管内の中でも高い部類入ります。あと計画としても井戸調査に関しては今後3年か4年ぐらい、年1孔か2孔掘って行きたいなというような考えで、次の料金見直しまでには今度は浄水場の方向性等に関してはになりますが、いまの5年に関しては井戸の水量の全量入れるかというような対応を進めていきながら、他のことに対しても検討して行きたいな思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

●委員長（竹田委員） 他にございませんか。3番。

●室崎委員 いただいた資料の中に未収金対策ってのが出てますね。それとはちょっと違うんだが、作った水が100%蛇口へ届くのが理想ですよ。だけど漏水だとかそういうものによって減ってしまいますね。有収率といったかな。それはどのぐらいに現在なあって、この後どのように見込んでるのか。資料見たときにちょっと分からなかったのでものを教えてほしい。

●委員長（竹田委員） 水道課長。

●水道課長（高瀬課長） お答えいたします。有収率なんです。現在令和2年度決算では67%。昨年までは70%確保してましたが、3%ほど減少したというような現状です。

●委員長（竹田委員） 3番。

●室崎委員 もう少し素人にわかるように言って欲しいんだが。じゃあ、何が原因なんだろうとかね、数字が動いたのはどういうことなんだろうとか。あるいはあの想像するのは、全体に使う水の量が減っていけば、漏水の何ていうのかな実数が変わらないとすればパーセンテージは上がりますね。

そういうような原因もあるでしょ。それから、それを少しでも減らそうとして色々な策練ってると、その対策練ってると思うんだが、そういうもの全体を説明してくんないとなんのために私聞いたか意味ないですよ。もう一度お願いします。

●委員長（竹田委員） 水道課長。

●水道課長（高瀬課長） 言葉足らずで申し訳ありません。その要因としては、漏水の増加ということがひとつあります。毎年各地域で漏水調査を実施しておるんですが、各家庭の個別の漏水が現在でも多い状況で、なかなかその町も協力しながら本管から枝に引き込んでいるところで漏水してる部分もございますので、あと各家庭に入ってる給水管というのがあってそれも老朽化によって増大してると。それも毎年見つけては直すというような形をとってますが、全体的に本管から枝に分かれている給水管もさることながら、本管の漏水も毎年少しずつは出ております。

それで、消火栓からの漏水というの也要因としてはあります。それも見つけるたびに修理はしておるんですが、なかなかやはりそちら消火栓の整備も毎年2基か3基更新しているんですがなかなか古いものが昭和50年代の管だとかそういう施設が多いもんですから、今後に関しては更新も進めながら大きな本管の更新も視野に入れて10年ほど本管ここから宮園神社の上から橋を渡って湖南地区まで、今の計画としては真龍神社から橋を渡ってあつけし保育所のところまでを重点的に本管整備をしていきながら漏水の抑制を図りつつ管の更新も進めていきたいというような要因がありまして、現在としては残念ながら漏水の水は作っても漏水によって流してるのが大きな要因となっておりますが、そのへん抑制しながら更新もしつつ対応してまいりたいと考えてございます。

●委員長（竹田委員） 3番。

●室崎委員 漏水対策も一生懸命やってるって話は聞いてますのでね、ただ施設が古くなってくると追いつかなくなってくるとい話もあると思います。それでねここで出せとは今は言いませんけれども、耐震化についてはいろいろと資料でてます。それと同じようにねやっぱりあの漏水ってのはこれだけあるんだと。そしてそれは管が古くなってくるとあちこちで起こるんだと。というようなことについてもいま答弁なさったようなことを全部資料として出すべきでないかと。

だから水道料金は高いともいわれるし、値上げもけしからんともいわれるけども、こういう事も要因なんだということはきちんと出しておくべきだと思うんですよ。で、改

めて機会みて議会なり厚文なりにですねそういうものも出して頂きたい。こう思うんですがいかがですか。

●委員長（竹田委員） 水道課長。

●水道課長（高瀬課長） お答えいたします。なかなか伝わらないというか、お客様、開栓閉栓というつどに説明、お客様にも説明させて頂いております。古くなった管があるときには、取り壊すといった際には極力撤去してくださいというような周知。あと、水源の方でも絵をつけてここからここまでは個人財産ですよ。町の財産ですよっていう周知は何度かさせて頂いていますが、なかなか町民そういう漏水の直していただけないかといった時にもお客さんの的にはまだその自分の財産だということがわかってなくて、町水道のほうで直すんだらうというような意見もありますので、いわれたとおり今後、その辺に関してもまだまだその認識が足りないということがありますので、我々としても周知広報を使って説明なりお客様来庁の時も説明を加えていきたいなと思いますのでよろしくお願いします。それから、議会のほうにも今後資料の提示をしていきたいと思っています。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。他にございますか。2番。

●石澤委員 水源が新しく変わるということは大事ななと思います。ちょっと心配なのは大別地区というかあそこに集中してますよね。井戸は何カ所か掘るんですけど。その本当のもとになる水っていうのは大丈夫なのかという心配があるんですがそのへんはどうなんですか。

●委員長（竹田委員） 水道課長。

●水道課長（高瀬課長） 井戸というのは文献によるといろいろ説がございますが、井戸の掘削深度以上は最低限離すというルールがございます。しかしそれだけでは地下の状況なので極力500mから1キロぐらいはこれまでも離しながら干渉を避けてる状況です。

現在何点か掘ってある井戸なんですが、少なくとも今の太田側にある井戸からは3キロほど離れております。他の2地区についても3キロから5キロぐらい離れてるんで、干渉は今のところないのかなというような状況です。

今後、他への井戸を使ってる方もいらっしゃると思いますので、影響がないかどうかというのは検討しながら進めてまいりたいというふうに考えてます。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。他にございますか。

（発言者なし。）

●委員長（竹田委員） なければ以上で質疑を終わります。お諮りいたします。討論を省

略し本案は原案のとおり決するにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声)

- 委員長（竹田委員） 異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり可決すべきものと決しました。以上で本委員会に付託された議案の審査は終了しました。よって、条例審査特別委員会を閉会いたします。

午前10時21分 閉会

以上のように会議の次第を記載し、ここに署名する。

厚岸町議会 条例審査特別委員会

委員長